



2026年4月16日

各 位

会 社 名 品川リフラ株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤原 弘之
(コード番号 5351 東証プライム、札証)
問合せ先 IR・広報部長 仮屋崎 勉
(TEL. 03-6265-1600)

減損損失の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年3月期の連結決算において、当社および連結子会社等に係る減損損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。また減損損失の計上に伴い、2026年2月5日に公表いたしました2026年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 減損損失の計上について

(1) 赤穂工場

当社は、2020年3月期に西日本地区の不定形耐火物の生産拠点を赤穂工場に集約する意思決定を行い、2025年3月期に新プラントの稼働を開始いたしました。2026年3月期において、設備は概ね順調に稼働していたものの、国内粗鋼生産量の減少を主因として国内耐火物の事業環境が当初の想定より大幅に悪化したことから、赤穂工場においては生産・販売数量が計画未達となりました。これを踏まえて、今後の事業環境における耐火物需要の減少リスクを勘案のうえ事業計画を保守的に見直し、将来の収益性を再評価した結果、当該資産について約43億円の減損損失を計上することといたしました。

なお、赤穂工場の営業キャッシュフローは黒字を維持していることから、今後も生産集約による効率化を一層推進するとともに、拡販活動を通じて生産量の維持・拡大を図り、操業を継続してまいります。

(2) Shinagawa Refratários do Brasil Ltda. (以下、SRB社)

当社のブラジル耐火物事業は、ブラジルの鉄鋼業界を主要な顧客として成長してまいりました。しかしながら、中国における鉄鋼の過剰生産や、各国における鉄鋼分野での保護貿易措置等の影響により、安価な中国鋼材がブラジル市場へ流入する事態となっております。その結果、SRB社の主要顧客においては、操業度の低下を余儀なくされており、このような状況は、製鉄プロセスに不可欠な耐火物需要の減少要因となっております。

これらの事業環境を勘案し、SRB社の事業計画を保守的に見直し、将来の収益性を精査した結果、のれんおよび固定資産について約39億円の減損損失を計上することといたしました。

なお、ブラジルでは輸入鋼材の抑制に向けた動きも生じており、これを受けて、ブラジル国内の耐火物市場についても、徐々に安定化に向かうものと見込んでおります。さらに、中長期的には米州全体において市場環境は再び安定化するものと認識しております。引き続き、ブラジル国外および鉄鋼業界以外の分野への事業展開を一層強化すると共に、従来より取り組んできたグローバルなグループ内連携をさらに推進し、SRB社の収益力向上を図ってまいります。

(3) Reframax Engenharia S.A. (以下、Reframax 社)

Reframax 社は、2025 年 5 月に当社の連結子会社となり、当社グループにおいて耐火物の施工を中心としたエンジニアリング事業を担っております。同社は、SRB 社と同様に、ブラジル鉄鋼業を取り巻く事業環境の悪化の影響を受けている状況にあります。足元の事業環境を織り込んだ将来計画をベースに、国際財務報告基準 (IFRS) に基づく減損テストを実施した結果、のれんについて約 15 億円の減損損失を計上することといたしました。

エンジニアリング事業においても、中長期的に安定した成長が見込まれる米州市場において、鉄鋼業界以外の分野への事業展開をさらに強化するとともに、SRB 社をはじめとする耐火物事業だけでなく、断熱材事業等との協業を通じ、グループ横断での付加価値の創出を図ることで、当社グループ全体の持続的な収益力向上に貢献してまいります。

(参考) 2026 年 3 月期の特別損益の見込み

2026 年 3 月期において、前述の特別損失を含めた特別損益の見込みは以下のとおりです。

	今回開示案件			不動産売却等 (注)	合計額
	赤穂工場	SRB 社	Reframax 社		
特別損益	△約 43 億円	△約 39 億円	△約 15 億円	約 366 億円	約 269 億円

注：不動産売却等の金額は、2025 年 11 月 11 日、12 月 11 日および 2026 年 3 月 5 日に公表した案件の金額を含みます。

なお、2026 年 4 月 8 日付「(開示事項の経過) オーストラリア子会社 Shinagawa Refractories Australasia クイナナ工場の土地収用と工場移転に関するお知らせ」にて公表しました固定資産売却益約 37 億円は、2027 年 3 月期第 1 四半期の特別利益に反映されます。

2. 連結業績予想の修正について

2026 年 3 月期通期の連結業績予想数値の修正 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

(金額の単位：百万円)

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	176,000	21,500	13,000	14,900	31,000	679 円 33 銭
今回修正予想 (B)	176,000	21,500	13,000	14,900	26,000	569 円 76 銭
増減額 (B-A)	0	0	0	0	△5,000	△109 円 57 銭
増減率 (%)	0	0	0	0	△16.1	—
(参考) 前期連結実績 (2025 年 3 月期通期)	144,072	17,953	13,278	13,655	9,778	214 円 48 銭

<修正の理由>

2026 年 3 月期通期の業績につきましては、売上高、EBITDA、営業利益および経常利益については前回予想から変更はありません。一方、親会社株主に帰属する当期純利益については、前述のとおり、赤穂工場、ブラジルの連結子会社 SRB 社および Reframax 社において減損損失を計上することとなったため、前回予想を下回る見通しとなりました。

なお、2025 年 5 月 15 日に公表しました年間配当予想 90 円 00 銭については変更いたしません。

3. 今後について

上記の減損損失は事業環境の変化を踏まえた資産評価の見直しによるものであり、当社グループの中長期的な事業方針に変更はありません。引き続き、各事業の収益力向上および事業基盤の強化に取り組んでまいります。

以 上